

としょかんたより



親子読書にご協力ありがとうございました



今年度も親子読書の取り組みにご協力ありがとうございました。「楽しかった」「家族と一緒に読むとよりおもしろかった」「読書が好きになった」という感想がたくさん見られました。いただいたご意見を来年度に生かしていきたいと思っております。貴重な時間の中での取り組み、心より感謝いたします。今後もよろしくお願ひいたします。いただいた感想の中から一部をご紹介します。

1年生

- ① 「ママといっしょにおやこどくしができてすごくてのしかったです。」
- ② 「ぼくがかりてきた本をよんぐれでうれしかったです。」
- ③ 「え本がとてもおもしろかったです。みんなでよんだらもっとおもしろいです。」
- ④ 「本の内容を教えてくれたり、本の中にある言葉の意味を調べたりして、本だけでなく日本語の世界も広がったと思います。」
- ⑤ 「子どもが読みたがるので、読んでもらつて聞いていました。どんどん読むのが上手になって、成長が見られてうれしかったのと、感性が磨かれた気がします。」
- ⑥ 「本を読むということを通じて一緒に過ごす時間が持ててとてもよかったです。どんなことを考えながら読んでいるのかがよくわかりました。」

2年生

⊕…子どもの感想 ◎…お家の感想

- ① 「本のくわしいなみをしっかりさいごまで読めたから、本に入っていたことばを話せるようになりました。」
- ② 「むずかしかったです。でも、本が楽しくなってきて読むようになりました。」
- ③ 「いろいろな本を読めてうれしかったし、本のしゅるいがたくさんあることを知りました。」
- ④ 「静かだなと思い姿を探すと熱心に読書をしていることが増えました。人気の本をGETできた時は特に大切に読んでいました。」
- ⑤ 「絵本を借りることが減り『わかるの?』『読めるの?』と聞いてしまうような小説や長文の本を読むことが増え、びっくりしました。時間を忘れ読みこんでいる時や楽しかったと話してくれる時、とてもいい顔をしていました。」
- ⑥ 「小さな頃は親が本を選んでいました。自分で読めるようになって自分で内容を確認して選んで読むようになり、子どもの好きな本がわからなくなりました。でも“親子読書”で子どもが好きな本を親も読み『今こんな本に興味があるのか』と知ることができました。」

3年生

- ① 「ほとんど親に読んでいたけれど、その代わりすら読めるようになります。」
- ② 「本がきらいだったけれど、親子読書に取り組んだおかげで本が好きになりました。」
- ③ 「いっしょに読んだ本がどうだったか話したり紙に書いてまとめたりできて、よかったです。」
- ④ 「同じ本を一緒に読んで思ったことを言い合ったり一緒に笑つたりと、楽しい時間を過ごせました。学校から借りてきた本を「これ、おもしろいよ」と言ってよく紹介してくれました。またおすすめの本があったら、教えてくださいね。」
- ⑤ 「子どもの選ぶ本の内容がどんどん難しいものになっていて、びっくりしました。本を通じて学ぶ事が多いうで、私が知らないことを教えてくれるので、こちらも勉強になりました。」
- ⑥ 「テレビやスマホを見ている時間が多くなっている中、貴重な時間になっていると思います。」

4年生



- ① 「お母さんといろんな本について話し合えたのでうれしかった。これからも、お母さんと本について話したいです。」
- ② 「この一年親子読書に取り組んでみて、二人ともじっくり本を読む時間が取れてよかったです。」
- ③ 「内容を読み取って感想をしっかり書けたからよかったです。」
- ④ 「文字数が多い本も読めるようになってきたね。いつか同じ本を読んで感想を話し合えるといいね。」
- ⑤ 「久しぶりに読書の時間を過ごして心がいやされました。今回の本は私自身も子どもも好きな本で、夢中であっという間の読書時間になりました。」
- ⑥ 「『これってどういう意味?』と本を通して聞かれることも多くなり、学びにもなるし、今どんな本に興味があるのかもわかるのでいい取り組みでした。」



5年生

- ① 「親と一緒に読んで、ますます会話が増えました。これからも続けたい。」
- ② 「私は親子読書して本の内容を離したことが楽しかったです。6年生でも親子読書をして楽しみたいです。」
- ③ 「読む本がちがった時は本のあらすじをかんたんに言ったり感想を言ったりし、同じ本を読んだ時はどんなところがおもしろかったかを言い合って楽しかったです。」
- ④ 「子どもからお話を上手に説明してくれて楽しかったです。6年生になっても読み聞かせのコミュニケーションを取りたいと思います。」
- ⑤ 「親子読書で同じ本を読んだ時、お互いの感想の違いや笑ったところが同じで話がとても盛り上がって楽しかったです。」
- ⑥ 「高学年になると、同じ本を読むことが難しくなるなあと思いました。これをきっかけに自分にも読書習慣がついたらいいなと思います。」



6年生



- ① 「中学生になって部活などが始まると、家族と関わる時間が少なくなるから、こういうのがあってよかったです。」
- ② 「読書をする時間が増え、読書が好きになりました。感想を書くために本の内容をよく理解し、『自分だったら』と考えることができました。」
- ③ 「4月と比べて読書に興味を持つことがすごく増えてきたと思います。また、周りの人にすすめなくなる本も見つけられたので、良い一年だったなと思いました。」
- ④ 「本を読む習慣がついたと思います。本の種類も様々なものにチャレンジできました。おかげで文を分かりやすく書けるようになったので、中学校でもその力を生かしていきたいです。」
- ⑤ 「昔よく読んでいた大好きな絵本を子どもに読んでもらえる日が来たんだなと思うと胸が熱くなりました。ありがとうございます。」
- ⑥ 「ゆっくりする時間ができるので心にゆとりができました。子どもと語り合うこともなかなかないので良かったと思います。」
- ⑦ 「書に親しむ時間を通し、お互いに興味のある本の話が出来たことは新たな親子の体験となりました。今後も定期的に読書の時間を設けたいと思います。」
- ⑧ 「どれだけ勉強や運動する時間が増えても読書は大事なので、少しでも読書の時間を作ってほしいと思います。」

◇6年生保護者の皆様から紹介していただいた「子ども達におすすめの本」◇ 上段:書名等 下段:おすすめポイント 

「ほくはなきました」くすのき しげのり (東洋館出版社)	「ごめんね ともだち」内田 麟太郎 (偕成社)	「おしゃいたんてい」トロル (ポプラ社)
きっと、もっと学校が好きになる本です！	友達との関係や人との関係について、自分と比べて改めることができ勉強になるから。わかりやすくておもしろい。	おならを犯人たいほの時にするからおもしろい。犯人見つけが楽しい。
「ふまんがあります」ヨシタケシンスケ (PHP研究所)	「リンゴかもしけない」ヨシタケシンスケ (ブロンズ新社)	「あんなに あんなに」ヨシタケ シンスケ (ポプラ社)
子どもと大人の気持ちがよく表れていました。	想像力、楽しさ、新しい発見など、他の本もおもしろいです。	<u>親子で</u> 読んでいただきたいです。
「あし にょきにょき」深見 春夫 (岩崎書店) 「100万回生きたねこ」佐野 洋子 (講談社) 「やっぱり じゃない！」 チョーヒカル (フレーベル館)	「ごんぎつね」新美 南吉 (偕成社等) 「はじめまして ひまわりちゃん」たまひよ 「バムとケロ」シリーズ 島田ゆか (文溪堂) 「まゆとおに」富安 陽子 (福音館書店)	「ずっとずっとだいすきだよ」ハンス・ウィルヘルム (評論社) 「ぐりとぐら」なかがわ りえこ (福音館書店) 「サバイバル」シリーズ (朝日新聞出版)
子どもが「欲しい!!」と言って買った絵本。食べ物の写真のようなものの本当の姿を見た時の驚きはすごい!!「何かな？」と考えながら見るのも楽しいです。	小説や長編も良いですが、単純で何度も読み返せる絵本は一番本に触れられるものだと思います。	色々な知識を得て、新たな発見がありました。
「いいね！」筒井 ともみ (あすなろ書房)	「ココロ屋」梨屋 アリエ (文研出版)	「オスの魔法使い」バウム (ポプラ社等)
“いいね”という言葉をつけるだけで、いつもだと「やだなあ～」とネガティブになる事も少しやわらかく前向きに考えられるようになり「なるほどね～」という気持ちになりました。	「ココロを入れ替えることができたら、どんなココロにする？」そんな事を話しながら、子どもと読みました。	自分が幼稚園の発表会の劇でオズの魔法使いをしたことがきっかけで、小さい頃何回も読んでいた。ブリキが大好きだった。
「フランダースの犬」 ウィーダ (ポプラ社等)	「ドリトル先生」シリーズ ロフティング (岩波書店等)	「チョコレート工場の秘密」ロルド・ダール (評論社)
主人公ネロに起こる理不尽な出来事や描かれている格差社会・差別的な扱いを通して、子ども達に憤りを感じてほしいです。そして、正しさとは何かを考えるきっかけになればと思います。	動物の言葉が本当に理解できる獣医の話だから、とても面白いのでおすすめです。	我が家場合は映画を観た後に本を買い与えました。細かい活字が並ぶ本ですが、登場人物の個性的なキャラクターや工場内の様子など、ワクワク感や夢が詰まった書籍だと思います。
「まほうのじどうはんぱいき」やまだ ともこ (金の星社)	「10分で読める伝記」シリーズ (学研プラス)	「はなはなみみ物語」わたり むつこ (リブリオ出版)
発想が面白くておすすめです。	「江戸の空見師 嵐太郎」 佐和 みずえ 「世界一クラフ」シリーズ 大空 なつき (KADOKAWA)	「若草物語」オルコット (講談社等) 「学校では教えてくれない大切なこと 整理整頓」 入江 久絵 (旺文社)
「電車で行こう！」シリーズ 豊田 巧 (集英社)	5・6年生には面白い本だと思う。	『人は話し方が9割』永松 茂久 (すばる舎)
学年問わず楽しめます。	「クジラのおなかからプラスチック」保坂 直紀 (旬報社)	『人は話し上手より聞き上手の方が会話はスムーズにいく』 ☞相手のことを想いながら話をすると、相手は心地いいのでしょうか。
「キッスペティア こども大百科大図解」柏原 順太 (小学館)	プラスチックのゴミ問題がこんなに進んでいたことをこの本を読んで改めて知って気になりました。自分たちにできることを考えようと思いました。	『バッテリー』あさの あつこ (教育画劇)
エアコン、パソコン、自動販売機、回転すし、運河、ピラミッド、宇宙服などの解説が104項目あり、子どもだけでなく大人も楽しめます。普段何気なく見たり聞いたり使用したりしている物・事柄の解説は読み出すと止まりません。	『アンネの日記』アンネ・フランク (文芸春秋)	子ども達が野球をやっているのもあり、何となく目についた本でした。野球だけではなく、人間関係や大人になっていく子ども達の苦悩、ズルくなっていくところ等、不安な気持ちが書かれています。自分に置き換えて考えてほしいと思います。
「ハリー・ポッター」シリーズ J.K.ローリング (静山社)	*小学校の時、読んで今でも心に残っており、とても良い本だと思います。 *今、戦争についてのニュースが多く、子どもも関心があるようです。戦争により、生活はどうなるか考えるきっかけになると思います。	『ドラえもん はじめての論語』(小学館) 藤子・F・不二雄／漫画原作 安岡 定子／著
*シリーズ全作品飽きることなく夢中で読みました。物語の面白さはもちろん、心の成長や善悪なども大いに学べると思います。 *大人が読んでも楽しめます。	『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 汐見 夏衛 (スタート出版)	『仁』『学び』『志』などのジャンルで構成され、論語を通して道徳学習ができます。
「はなちゃんのみそ汁」 安武 信吾・千恵・はな (文芸春秋)	・戦争について改めて考えさせられる ・戦争とは何か、と学べる	『三毛猫ホームズ』シリーズ 赤川 次郎 (KADOKAWA等)
たくさん料理レシピもある中でも、このみそ汁さえ覚えていれば大丈夫だと思います。実話なだけに、とても感動しました。	『ぼくらの七日間戦争』宗田 理 (ポプラ社等)	自分が小学生の時に読んで、おもしろかった。
「風が強く吹いている」三浦 しをん (新潮社)	一緒に大人相手に戦争をした気分になりました。	『いのちづぐ「みとりびと」① 恋ちゃんはじめての看取り』國森 康弘
素人メンバーが箱根駅伝に向けて猛練習しトップをみんなで目指していく話です。	『フレイフ・ストーリー』宮部みゆき (KADOKAWA等)	核家族化が進み医療も進歩し、病院で亡くなる人がとても多くなりました。大切な人の死を体験する機会も少なくなっています。それでも、死が怖いだけのものではなく、生命は大切なものであると実感できるのは大切な人の別れの経験ではないでしょうか。恋ちゃんの体験は恋ちゃんをとても成長させたのでは、と思います。死を考えるきっかけになればいいなと思い、紹介させてもらいます。
「31セントの約束」嘉悦 洋 (西日本新聞社)	最近書店で“異世界”や“転生”といったタイトルの書籍をよく見かけるようになりましたが、これはその「先駆け」の作品です。ストーリーテラーの宮部みゆきが読む人をゲームの中の世界に連れて行ってくれます。主人公と一緒に大冒険の世界へ旅立ってください。そして冒険の最後は…読んでのお楽しみです！！(映画とは異なるエンディングらしいですよ！)	『セパ！』虹山つるみ (ポプラ社)
病気になった友達に対して自分ができることを見つけ“ヘアドネーション”を通して更に仲が深まる物語です。この本は病気がきっかけですが、何かをきっかけに仲が深まったり、絆が強くなったりするということを感じられる一冊だと思います。	『かみさまは小学5年生』すみれ(サンマーク出版)	サッカーもバレーもやめてしまった主人公がセパタクロームに出会うお話。
「四つのサイン」シャーロック・ホームズ全集② アーサー・コナン・ドイル／作 (河出書房新書)	実話ということで今読みたいと思っている一冊。子ども達にも考えてももらいたい「幸せ」について。	『死神うどんカフェ』石川 宏千花 (講談社)
コロナ禍で家にいる時間が長い中、日々に読み返し懐かしくなりました。少し背伸びをしてホームズシリーズを読むと面白いと思います。	インターネットリテラシー教育の一環として。	子どもにすすめられて読みました。命の大切さを感じつつ、ユーモアあふれた内容でした。
「4コマ哲学教室」南部 ヤスヒロ (イースト・プレス)	『FACTFULNESS』ハンス・ロスリング (日経BP社)	『こまつさん』シリーズ 寺村 輝夫 (あかね書房)
哲学に触れるきっかけとしてはよいです。石川県に住んでいるなら西田幾多郎先生を知ってほしい。	『シノダ！チビ竜と魔法の実』富安 陽子 (偕成社) 『島田秀平が3万人の手相を見てわかった！』 『強運の鍛え方』島田 秀平 (SBクリエイティブ)	読みやすく、頭の中で情景を思い浮かべができる作品です。